

看取りの文化を構想する

□ オンライン開催
死生学研究所ホームページから
お申込みください

□ お申込み締め切り
2023年6月21日(水) 17時

□ 先着 100名様

□ お問い合わせ 死生学研究所 shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp □ 参加費 無料

第3回連続講座

相澤 出

東北医科薬科大学
(あいざわ いずる) 教養教育センター准教授

6月24日(土)

16:20-17:50

■プロフィール

専門は社会学。地域や在宅での医療・介護・福祉の社会的な研究をしています。自宅や自宅ではない生活の場での、生活の質(QOL)を維持・向上させるケアのあり方に関心があります。

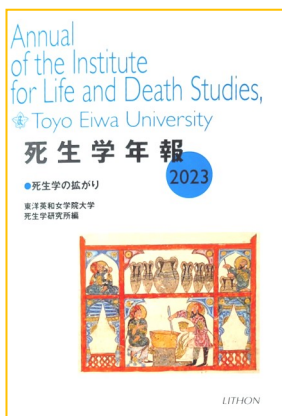
■主要業績

- 1) 相澤出, 2022, 「過疎地域における訪問看護ステーションの機能と意義:宮城県登米市の地域連携の事例から」『社会学研究』107, 125-147.
- 2) 相澤出, 2021, 「地域医療の担い手が捉える過疎地域の家族と介護の変化:宮城県登米市を事例として」『社会学評論』71(4): 577-594.
- 3) 相澤出, 2019, 「特別養護老人ホームと自宅での看取り、そしてホームカミング:地域への問題提起としての看取りをめぐるケア」『文化人類学』84(3): 295-313

「ホームカミング」を可能にした地域づくりのあゆみ——「住み慣れた町で最期まで」への挑戦が示唆すること——

内容紹介:

現在、地域や在宅といった、生活の場でのケアへの関心が高まっています。他方で、日本社会における家族と地域の変化や、医療と介護をめぐる変化も大きく、住み慣れた自宅や地域で最期まで暮らし続けることができるのかと、不安を感じている人も少なくありません。そのような状況のなかで、各地で独創的な試みも進められています。今回は、住み慣れた地元で、最期まで幸せに暮らすことが出来る地域づくりに挑戦してきた事例をご紹介します。事例に即しながら、今後の、それぞれの地域での、人生の最期まで充実した生活を少しでも実現できるような、地域包括ケアを構想する上での手がかりとなるものは何かを考えていきます。



東洋英和女学院大学死生学研究所編

死生学年報2023

「死生学の拡がり」

◆書店にて定価2,500円+税でご注文、ご購入いただけます

◆お問い合わせ 東洋英和女学院大学 死生学研究所

shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp

お申込みはこちら



<予告>

◇第4回〈公開〉連続講座 2023年7月29日(土) 16:20~17:50

加賀谷真梨(新潟大学人文学部人文学科准教授)